

目次

序	iii
錯謬法の意義と限界に関する一考察	
——保証契約における「法律行為の内容化」を中心に——	武川幸嗣
遺言による権利取得における登記の要否	
——裁判例の考察による具体的判断要素の分析——	田高寛貴
ドイツ剰余共同制における家財道具の物上代位規定	
——成立から削除にいたるまでの経緯——	水津太郎
アメリカにおける家族の変容と同性婚	
	西川理恵子

ブラジルの簡易裁判所 (Juizado Especial) と消費者被害の救済	
——ポルトアレグレ市及びサンパウロ市における聞き取り調査とともに——	前田美千代…… 二二三
買主の正当な認容拒絶	
——商法第五二七条の沿革および比較考察を契機に——	北居 功…… 一七三
保証人の錯誤問題	
——諸判決の個別的検討——	金山直樹…… 二〇一
医療過誤における損害賠償責任の一元化の可能性	
——人身損害賠償法における法的構成のユートピア——	平野裕之…… 二二三
債権の準共有について……	松尾 弘…… 二五五
原点としての婚姻法	
——再婚禁止期間訴訟をてがかりとして——	西 希代子…… 二八五
夫婦同氏制による「子の利益」	
——平成二七年最高裁判決への反論を契機に——	古賀 絢子…… 三〇九

韓国における親養子制度と入養特例法の意義	
——夫婦共同入養要件をもとに——	田中佑季
	三九六
犬伏由子教授略歴・主要業績	三四七